

## 《20人の新入社員が配属されました》～発電所の一員として、しっかりと業務に取り組んでまいります～

4月15日、平成28年度の新入社員20人が、女川原子力発電所に配属されました。

新入社員は研修を経て、発電所の一員として、日々の保安活動や安全対策等の業務に共にしっかりと取り組んでまいります。また、業務だけでなく地域の一員として活躍できるよう育ててまいりますので、よろしくお願いいたします。



### 宮城県出身の新入社員です

仕事を早く覚え、東北地方、そして地域の方々に貢献できるよう頑張ります。



保全部 電気グループ  
**佐藤 礼一** (仙台市出身)

不安で一杯ですが、先輩方が優しいので心強いです。早く一人前になれるよう頑張ります。



保全部 計測制御グループ  
**小縄 康之** (仙台市出身)

新入社員らしく、地域も職場もより明るくできるよう、元気に頑張っております。



保全部 タービングループ  
**小野 真杜** (大河原町出身)

## 《女川原子力発電所「構内特別安全大会」を開催しました》 ～平成28年度の作業安全を誓いました～

4月13日、女川原子力発電所において、「平成28年度構内特別安全大会」を開催しました。大会には、女川原子力発電所員および構内協力企業社員約1800名が出席しました。大会では、石巻労働基準監督署長による安全訓話のほか、作業安全および放射線安全ならびに交通安全に関する安全標語の表彰、作業開始前の安全確認の実演、また、作業安全に対する決意表明が行われました。最後に参加者全員で安全標語の指差唱和を行い、今年度の作業安全を誓いました。

これからも、関係者一丸となって安全第一で取り組んでまいります。



安全標語表彰の様子



全員で安全標語の指差唱和



# 女川原子力PRセンターからのお知らせ

## 「ローズガーデンフェア」開催!!～素敵なバラをご覧にぜひお越しください～

6月1日(水)から6月30日(木)まで、女川原子力PRセンターにて「ローズガーデンフェア」を開催します。

「ローズガーデンフェア」の期間中は、約70種類のバラが見頃を迎えます。また、下記の教室も開催いたしますので、ぜひ、皆さまお誘い合わせのうえ、お越しください。



### 《ミニバラを使った寄せ植え教室》

開催日：6/5(日)、11(土)、12(日)、18(土)

### 《バラの花びらを使った押し花教室》

開催日：6/25(土)

開催時間：11:00～12:00

開催場所：女川原子力PRセンター1階大ホール

参加費：おひとりさま1教室500円(教材代として)

申込方法：お名前、参加人数、電話番号を電話にてご連絡ください。

期間中の毎日：10:00～16:00

連絡先：女川原子力PRセンター TEL.0225-53-3410 休館日：6月20日(月)は休館日です。

## 《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.062マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

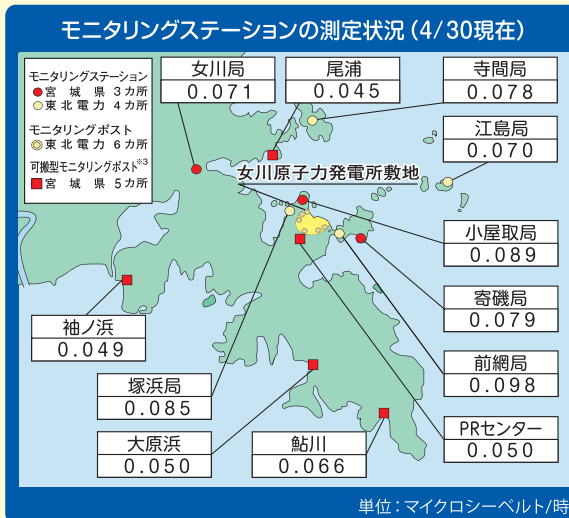
※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

### (参考)モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	
平成23年3月11日	0.027～0.064
〈地震発生日後最大値〉	
平成23年3月13日	1.8～21※4
〈地震発日以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	
平成24年4月1日	0.063～0.098
平成25年4月1日	0.055～0.076
平成26年4月1日	0.046～0.065
平成27年4月1日	0.043～0.077
平成28年4月1日	0.041～0.061
平成28年4月30日	0.039～0.062



## 新規制基準適合性審査状況のお知らせ(4月末現在、審査会合74回開催)

### 《基準地震動の策定(内陸地殻内地震)について》

女川原子力発電所2号機の適合性審査では、基準地震動の策定のうち、「内陸地殻内地震」について審議されています。(平成28年4月8日)

これまでの審査会合におけるコメント等を踏まえ、「F-6断層～F-9断層」による地震および仙台湾の断層群による地震について、不確かさを考慮(注1)した場合でも、基準地震動に与える影響が小さいことなどを説明しました。

本審査項目については、**原子力規制委員会からおおむね妥当な検討がなされている**と評価されました。

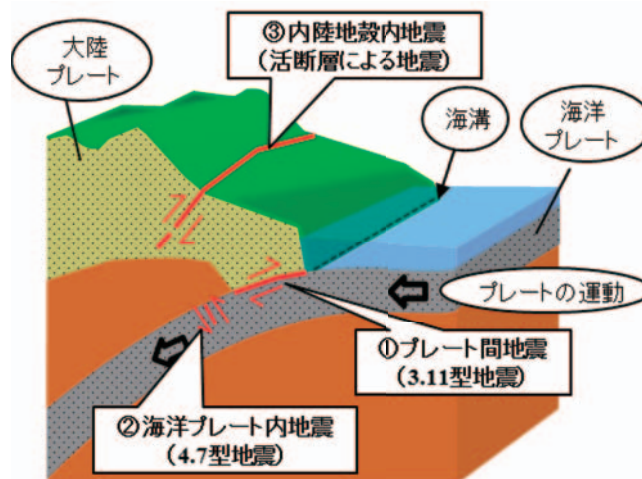
(注1) より厳しい条件等で評価を行う観点から、科学的に合理性のある範囲で、様々な数値シミュレーションを行うこと。

### 基準地震動の評価概要

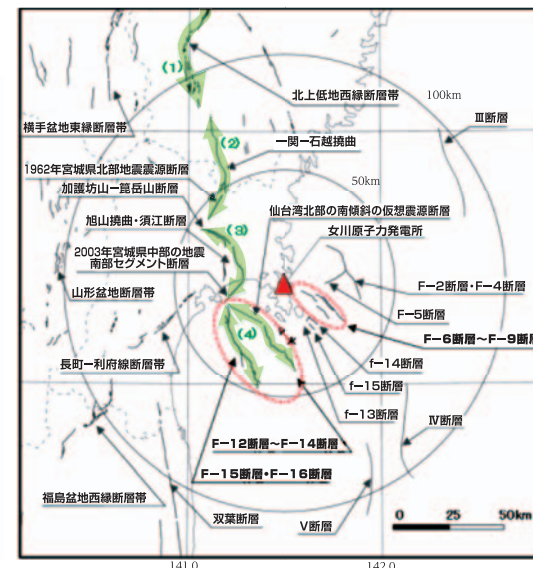
震源を特定して策定する地震動	①プレート間地震	2011年東北地方太平洋沖型地震(3.11型地震)を考慮 上記地震について断層モデルによる評価を実施	基準地震動Ss-1 640ガル(申請時) 新たな地震動(3/4公表済み) 717ガル	審議中
	②海洋プレート内地震	2011年4月7日宮城県沖型地震(4.7型地震)を考慮	基準地震動Ss-2 1,000ガル(申請時)	
	③内陸地殻内地震	F-6断層～F-9断層による地震および仙台湾の断層群による地震を考慮		おおむね妥当な検討がなされていると評価
震源を特定せず策定する地震動(注2)	留萌地震を考慮	新たな地震動(4/21公表済み) 620ガル	審議中	

(注2) 震源と活断層を関連付けることが困難な過去の内陸地殻内の地震による地震動

### 地震の発生様式イメージ



### 震源として考慮する活断層



※さらに保守的な観点から、地震動評価では(1)～(4)が連動した場合も考慮する。

審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。

東北電力 女川審査会合

検索